

神奈川県立柏陽高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおりに開催した。

審議会等名称	神奈川県立柏陽高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会
開催日時	令和7年6月19日(木) 15:45 ~17:00
開催場所	神奈川県立柏陽高等学校 大教室
[役職名] 出席者	[委員] 川口 吉秋 (会長、元県立高等学校長) 松永 朋美 (横浜市栄区長) 佐藤 俊作 (横浜市消防局栄消防署長) 一杉 太郎 (東京大学大学院教授) 細田 利明 (栄区連合町内会自治会会长) 會田 勉 (柏陽高等学校長) [事務局] 小野 亜希子 (副校長)、鈴木 克敏 (教頭)、瀧田 恵美 (事務長)、 中島 良光 (総括教諭)、水戸 瑞樹 (総括教諭)、三角 峻 (総括教諭)、 市田 尚史 (総括教諭)、万年 美喜子 (総括教諭)、目黒 梓 (総括教諭)、 山岸 一夫 (教諭)

～開会～

1 校長あいさつ

<會田校長>

委員の皆様からのご意見を、日頃の教育活動に生かすことのできる貴重な機会である。出席していただきたい委員の皆様からご意見を頂戴する時間を多く取りたいと考えている。

2 学校運営協議会の開会にあたって

- (1) 学校運営協議会委員の委嘱
- (2) 学校運営協議会委員及び事務局の照会
- (3) 学校運営協議会について
- (4) 議長及び副議長の選出

3 協議

- (1) 学校評価部会及び学校設置部会について

- (2) 神奈川県立柏陽高等学校の教育活動等について (報告)

[各グループによる説明]

グループ	説明者	概要
総務・管理	中島 総括教諭	資料 P.1~2
研究・広報	水戸 総括教諭	資料 P.3~4 他に、本郷中学校の教諭が来校予定
教務・学習	目黒 総括教諭	資料 P.5~6 教科を超えての授業研究を予定
進路指導	市田 総括教諭	資料 P.7~11
生活支援	三角 総括教諭	資料 P.12
活動支援	万年 総括教諭	資料 P.13 体育祭の気温が心配 陸上部インターハイ出場決定

(3) 令和7年度神奈川県立柏陽高等学校の学校運営について（承認事項）
校長：P.4 グランドデザインについて、P.7 を含めご意見を頂きたい。
松永：地域との連携に期待している。
佐藤：「皆の目標」であり続けて欲しい。
一杉：SNS や DX 等、最先端の技術を教員が使いこなすことで、生徒の活用につながる。
川口：教員のオーバーワークにつなげたい。
校長：県からの指示や制限もある。事務局側の出席者から活用事例をお伝えいただきたい。
三角：生成 AI を使っている。SNS の問題は、生徒からの相談で発覚することがある。
中島：生徒がチャット GTP を使っている。プラス要素としない等、評価については慎重に対応している。
一杉：大学でも生徒がカメラを使うことが多くなった。
校長：黒板が見えにくい場合、スマホで写真を撮って拡大している場面がみられる。
細田：中学でも BYOD、柏陽から多くの部活動の生徒が地域に参加してくれていてありがたい。
中西：「全力投球」が PTA のスローガン、PTA ができるなどを教員と連携していきたい。
一杉：教員の仕事は「支援というより伴走」
川口：デジタル技術の活用が大事であるが、記述や論理的展開はどう育むかが課題である。
目黒：テストはマークシートだが、記述は授業時間の中で丁寧に読み取っている。
一杉：評価の比重はどうか。
目黒：どちらかが軽い、というものではない。
一杉：安心した。バランスが難しい。日本では進学校でもまだまだ受け身の授業が多い印象がある。P.4 の人材に期待したい。
川口：進級できない生徒へのフォローをお願いしたい。
一杉：探究の課題はどうか。
水戸：10名程度の生徒を外部に送り出したいと考えている。
川口：学校評価の中の「探究」の評価についての文言を変更した意図はどうか。
水戸：数値として表せない部分を評価しようとしたものである。
一杉：ポスターセッションについてはどうか。
水戸：ポスターセッション代表者を横浜南地区の探究的学習発表会で発表させる予定である。
中西：AIについて伺いたい。
川口：近年「モノが先に来て、後からマナーやモラルが追いかける」傾向にある。

4 事務局より

- (1) 今後の日程について
- (2) その他

～閉会～

今後の検討事項	
主な会議資料	<ul style="list-style-type: none">・次第、座席表・学校運営協議会計画書・柏陽高校の教育活動について・柏陽高校のミッション・学校目標等・学校案内・学校要覧・コミュニティスクールリーフレット
問合せ先	県立柏陽高等学校 副校長 小野 亜希子 電話番号 045(892)2106